

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1912号 2008年02月25日(月)

《 money goes to commodities 》

先週2月18日の分析(1911号)からの繋がりで言うと、先週の市場は株式、為替にしろ上下のリスクが再び拮抗していることを示したと言える。それにしびれを切らした資金が、石油であれ、金であれ、穀物であれ商品市場に流入した週だと見なすことが出来る。商品市場には目立つ強気材料が多い。2月の初旬から中旬にかけて金融市場で見られた楽観論は時期尚早だったということだろう。

金融市場の不安定さは、一つ一つのニュースに対する市場の反応で分かる。落ち着きがなく、市場が何を信じて良いのか分からない状況をよく示している。例えば金曜日のニューヨーク市場における株価の動きは象徴的だった。

この日は製造業に関わる指標の悪さもあって、アメリカ経済の先行きに対する不安感が高まり、日中の殆どをかなり大きなマイナス圏で推移していたニューヨークの株価は、CNBCが今問題となっているモノラインの社である Ambac 救済策が今週早々にも発表されるかも知れないと伝えた瞬間から、それまでのマイナス100ドル前後(ダウで見て)からあっという間に200ドルほど上昇、引値は97ドル前後のアップとなった。

一瞬にして、一片のニュースで市場の地合が変わる今の市場環境は、市場全体を不安定感や自信のなさを象徴している。冷静に考えれば Ambac は数あるモノラインの社に過ぎなく、では MBIA や FGIC はどうするのかと考えてみれば、Ambac の救済案は「小さな一歩」に過ぎない。アメリカの金融システム全体を覆っている雲は少しも晴れていないのである。

それでもちょっとしたニュースに市場がきっかけを掴もうとするのは、市場参加者の中に「PER や期待収益率を考えると、今の株価は安い」という「買いたい衝動」が潜んでいるからである。先週も指摘したように、「このまま金融緩和が続いたら、金融市場の資産化商品がいつかは大きく値上がりする」(債券の場合は値下がりするが)という期待感がある。

ある人はウォール・ストリート・ジャーナルに「economic jitters that marked most of the session likely will continue weighing on the market in the weeks ahead」と言い、別の人は「This market is already too cheap (compared to expected earnings) to push much lower」というという状況だ。つまり、上にも下にも確たる舵が切れないのである。

アメリカのリセッションや世界的な景気同時後退という観測があるものの、こうした中でも「需要の強さは変わらない」、「金融市場の先行き不安定化から見れば、こちらの方が

買える」という理解で買い進まれているのは、金、原油、穀物、非鉄金属などの商品相場である。そのどこにでも出てくる国名は「中国」で、最近はこの名前さえ出せば相場が上がる背景となっている。資源浪費型の経済発展を続けている中国は、世界の商品市場では今は圧倒的な存在感がある。

《 lower dollar ahead ? 》

先週の市場が示した一つの兆候は、為替相場の株式市場動向離れである。今年に入ってからニューヨークの株価の動きに密接に連動していた。ニューヨークに限らず、東京の株価を含めて、「株」に連動していた。ニューヨークの株が下がればリスク回避の連想から円高になってきた。

しかし、ドルには基調的に下方圧力が今はかかっていることを忘れてはいけないと思う。特にオセアニア通貨など資源国通貨に対しては弱い。3月18日にはFOMCが再び利下げが行われるだろう。市場の予想は2.5%への引き下げを見ている。打ち止め感はそれでも出ないと考えられる。

次に、今週はアメリカ経済の実態に関する統計が数多く発表される。これらの統計で「アメリカのリセッション懸念」が強まれば、ドルに対する下方圧力は強まるだろう。ただし対円では、ドル安は限界的かも知れない。

今週注目される経済指標では、景況を示すモノとして米1月の耐久財受注、コンファレンスボードの消費者信頼感、1月の新築住宅販売、1月の個人消費支出など。当局者の発言としては、27日のバーナンキの議会証言が注目される。金融政策に関して述べるので、市場の注目度も高い。

日本の経済指標を数多く出てくる。景況感は街角を中心にかなり悪くなっているが、それが指標で注目されるかどうか。ドルには下方圧力がかかっているが、日本の景気も悪く、景気比では必ずしもドル安だけを見られない状況がある。金利水準の低さを含めて、円安圧力も存在する。特に対オセアニア通貨に対してはそうした動きである。

今週の主な予定は以下の通りです。

2月25日(月)	米1月中古住宅販売件数
2月26日(火)	1月企業向けサービス価格指数
	米1月生産者物価指数
	米12月S&Pケースシラー住宅価格指数
	米10~12月住宅価格指数
	米2月コンファレンスボード消費者信頼感指数
2月27日(水)	米MBA住宅ローン申請指数
	米1月耐久財受注

2月28日(木)	米1月新築住宅販売 バーナンキ米FRB議長が議会証言 1月鉱工業生産(速報) 1月商業販売統計 水野日銀政策審議委員、経済懇談会挨拶 米10~12月GDP(速報) 米10~12月個人消費(速報) 米10~12月GDP価格指数(速報) 米10~12月コアPCE(速報) 台湾市場休場(平和記念日)
2月29日(金)	1月労働力調査 1月家計調査 2月東京都区部消費者物価 1月全国消費者物価 1月住宅着工件数 1月建設許可件数 EU1月消費者物価 米1月個人所得・支出 米1月PCEコアデフレータ 米2月シカゴ購買部協会景気指数 米2月ミシガン大学消費者信頼感指数(改定値)
3月1日(土)	森永乳業、明治乳業、東洋ゴム、日清オイリオなどが値上げ

《 have a nice day 》

それにしても風の強い週末でしたね。土曜日は法事があって諏訪に行ったのですが、直接的でないにしても、風の影響でダイヤが乱れた。今年は新幹線なども雪でダイヤが乱れたりして、今度は風でJR東日本や東海の数多くの新幹線が運転見合わせ。まあ私も日曜日にワールドビジネス・サテライトの塩田アナウンサー(兼記者)さんの結婚式には道を歩くのがいやで、自分で運転して会場(リッツでした)まで直接車で行きました。「気軽な服装で」「パーティーです」と書いてあったので、立食かなと思ったら、本格的な結婚式でした。お相手は確かクレディ・スイスにお勤めの方でした。

ところで、今ウォール・ストリート・ジャーナルを見たら、懐かしい名前が。ラルフ・ネーダー。何と2008年の大統領選挙にも出馬するという。毎回(最近では2000年、2004年)、民主党の候補から票を取るので、民主党の連中は「election spoiler」と呼ん

でいるようですが、今回はどうなるのか。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》